

第6回水稲病害虫発生予察結果

5月上旬田植えの早生品種[コシヒカリ・キヌヒカリ等]の生育状況

【病害虫の発生状況について】

今回の調査では、病害虫の発生は確認されませんでした。

【稲の生育状況と水管理について】

幼穂(穂のもとになる部分)の長さが4~6cm程度まで生長し、一部の圃場では穂ばらみ期(出穂間近の状態)となっております。この状態からだと出穂まであと7~10日程度を必要とします。

幼穂の生長には水を必要としますので、^{かんざんかんすい}間断灌水の水管理を行うようにしてください。

【穂肥について】

幼穂の長さが0.8~1.5cmが第1回目、その後5cmになるまでが第2回目の穂肥施用のタイミングです。その後の穂肥の施用は倒伏の原因となりますので控えてください。また、1度穂肥を施用した後、葉色が濃い緑色をしていれば、2回目の穂肥を施用する必要はありません。

※幼穂の長さの確認方法は前回の水稲予察結果をご覧ください。

【カメムシの対策について】

出穂すると穂に食害を与えるカメムシは、周辺の雑草地から田んぼへ侵入してきます。カメムシの住みかを減らすために、田んぼ周辺の雑草地や畦畔は刈払機などで除草しておきましょう。

クモヘリカメムシの加害パターン



提供:シンジェンタジャパン(株)

5月下旬田植えの晩生品種[あいちのかおり SBL]

晩生品種の田んぼは現在中干しを行っています。

幼穂はまだ確認できなかったため、引き続き中干しを続けてください。

中干しの期間は晴天が続けば1週間で構いませんが、今年は7月上旬から雨天が続いており、今週もほとんどの日が雨天の予報のため、中干し期間は2週間を目安に行ってください。

幼穂が確認できたら田んぼに水が必要となりますので、中干しを2週間行ったら、地面にヒビが入ってなくても中干しを終了し、間断灌水の水管理に切り替えてください。